

研究 主題	日々の授業づくりが充実する校内研究の推進 —気軽に授業を見合い実践できる環境づくりと実践発表会を取り入れた校内研修を通して—
----------	---

実践発表会 校内研修計画案

研修月日 令和7年11月12日
所属校名 互理町立荒浜小学校
氏名 菊地 健太

◇ 本計画の位置付け

(1) 本校における校内研究の実状

① 研究主題と設定理由

本校児童の「書く力」を伸ばしたいと考え、研究主題を「自分の思いや考えを明確に持ち、適切に表現する児童の育成～カードやツールにより児童の思考を引き出す国語科『書くこと』の指導の在り方～」と設定した。

② 研究1年目(昨年度)の取組と2年目(今年度)の展望

研究1年目では、研究の話合いと授業実践を重ねた結果、思いや考えを持たせるための手立ての一つとして、カードやシンキングツールの活用が有効だという可能性が見えてきた。研究2年目では、「思いや考えの持たせ方」に焦点を当て、児童の思考を引き出し整理するために、カードやシンキングツールの効果的な活用について検証を行う。

③ 本校教員の実態

本校教員の構成は、教職経験年数の浅い教員(5名)と豊富な教員(3名)の二極化が見られる。年度始めに実施した意識調査の結果から、国語科の「書くこと」については、経験年数の浅い教員を中心に半数以上の教員が学習指導に自信がないことが分かった。また、経験年数の豊富な教員の多くがICT機器の活用に不安を感じていることも明らかとなった。さらに、今年度の研究では、児童の思考を引き出し整理するために、カードやシンキングツールを取り入れた授業改善に取り組むが、多くの教員がシンキングツールを使うことに慣れていない、あるいは慣れてはいるが、より効果的な使い方を模索中という状態である。

④ 校内研究の体制

これまでの校内研究の主軸は研究授業であり、授業の成果や課題を共有して児童の学力向上につながる授業改善を目的として取り組んできた。しかし、教員によってはICT機器等を普通の授業で使うことや校内研究の手立てを講じることへの敷居が高く、研究授業がその場限りの実践になってしまうことがある。そのため、現状の体制では研究の成果を日々の授業づくりに結び付けるには不十分であると考え。

(2) 本研究の取組について

(1)を踏まえ、日々の授業づくりが充実する校内研究の推進には、年間を通して、授業づくりについての教員同士の学び合いの場が必要であると考え、本研究主題を設定した。「授業づくりが充実する」とは、日々の学習指導や校内研究、校内外の研修で得た学びを基に授業改善をしていくこと、授業づくりについての教員間の活発な話合いがなされることである。そのための手立てとして、気軽に授業を見合い実践できる環境づくりと、実践発表会を取り入れた校内研修の充実を図ることを研究の二本柱とし、それらの有効性を検証している。

① 気軽に授業を見合い実践できる環境づくり

ア 校内研究の手立てを取り入れた提案授業

実践Ⅰを校内研究における1回目の研究授業として位置付け、校内研究の手立ての具体を伝えることで、今後の授業実践の見通しを持てるようにした。実践Ⅰ後は、各担任が校内研究の手立てを

講しながら授業実践を進めてきた。

イ 授業参観の工夫

本校は、1年間で一人1回の研究授業を行っている。その際、学習指導案を略案で作成することで、作成時の授業者の負担軽減を図っている。さらに、参観時の共通の視点を学習指導案冒頭に明記することで、参観者が視点を絞って授業に参観できるよう工夫を講じている。なお、この視点で、事後検討会の話合いを進めている。これらに加え、ミニ参観の実施も計画中である。

「ミニ参観」とは、必要に応じて授業者が設けた参観する視点を基に授業の一部を見合う活動である。校内研究に沿った授業を行う中で、教員同士の積極的な交流を促し、学習指導の向上と実践意欲の向上を図っている。実施に当たっては、以下のとおりである。

授業者は、

- ・校内研究の手立てを講じている場面や、その手立てを講じた後の活動について授業を行う。
- ・上記の場面であれば、国語科に限定せず、どの教科でもよい。
- ・いつ授業を行うか、事前に周知する。(全体でも、学年部でも)
→直接声を掛ける、職員室後方ドア近くのホワイトボードに書き込む など
- ・授業者が設定した参観する視点を伝えておく。
例) 手立てが有効かどうか見てほしい。手立てを講じた後の児童の様子を見てほしい。
- ・指導案はあってもなくてもどちらでもよい。

参観者は、

- ・授業者が設けた参観する視点を基に参観する。
- ・参観中の担当学級は、自習体制にするか、7学年の先生方に補教体制をお願いする。
- ・良かった点や改善できそうな点があれば、時間を見付けて授業者と意見交換をする。

② 実践発表会を取り入れた校内研修

ア 実践発表会の実施

「実践発表会」とは、校内研究に沿った授業実践を学級担任が発表し、講じた手立ての有効性や課題等を共有する場である。思いや考えを持たせるために、校内研究の視点1(考えを引き出すための工夫)と視点2(考えを整理させるための工夫)の手立て(カードや付箋、シンキングツール)を講じた授業の成果や課題、児童の成果物等について発表し、実践を共有している。これまで二度実施し、実践発表会の様子や事後検討会から今後の企画・運営の改善を図っている(会の様子、成果や課題等は、本計画案「4 これまでの研修の経過」に記載)。

イ 教員の実態に応じた校内研修の展開

シンキングツールの活用方法をはじめ、校内研究の推進につながる研修を展開し、個々の指導力向上を図っている。

以上の本研究の取組の中でも、特に実践発表会を取り入れた校内研修の充実が必要であると考えた。したがって、すでに行った1、2回目の経過を踏まえ、3回目の実践発表会を実践Ⅱとして位置付け、校内研究を推進する上での有効性を更に検証するとともに、今後の会の進め方の改善を図っていく。以下は、実践発表会の目的、内容、方法、全体計画等と、3回目の実践発表会の計画を示すものである。

◇ 実践発表会

1 目的

校内研究を意識した授業づくりの手掛かりを見付け、個々の学習指導に生かせるようにしていく。

2 発表内容と方法

(1) 発表内容

- ・校内研究の手立てを講じた授業や、その後の活動等について一人当たり1～3分程度で発表する。
- ・発表では、「手立てと講じる目的」「結果」「児童の様子」を必ず伝える。その他、「具体の指導」「成果物」「身に付いた力」「教師の気付き」等を発表してもよい。

- ・校内研究のテーマを達成するための手立てを用いている場であれば、国語科に限定せず、どの場面でもよい。
- ・ミニ参観での学びや気づき等を発表してもよい。
- ・発表後、参加者からの質問に答える時間をとり、必要に応じ全体で話し合う。

(2) 発表方法

以下のいずれかを選択または組み合わせて発表する。

- ・口頭発表
- ・紙面発表
- ・動画による発表（電子モニターの使用可）
- ・児童の作品を用いた発表
- ・その他

(3) 実施するに当たって

① 事前準備

ア 発表内容と方法を、発表者と研究主任で事前に共有する。その際、必ず発表する項目を発表者に伝えておく。そうすることで、発表内容と発表時間の目安等を把握し、滞りなく研修を進められるようにする。

イ 見通しを持って参加できるように、研修の流れと発表内容を1枚にまとめ、前日までに配布する。

② 発表当日

ア 研修始めに、必ず発表する項目と話合いの視点を確認し、明確にしておく。

イ 座席と話合いの形態を工夫することで、全員が話合いに参加できるようにする。

ウ 発表するべき項目が抜けていた際は、研究主任が発表者に質疑を行い、話合いに移る。

③ 研修後

ア オンラインアンケートフォームによる事後アンケートを実施し、今後の改善に生かしていく。

イ 発表会で使った資料や記録は、実践共有ファイルに綴ったり、データ化して校内研究フォルダに保存したりして、いつでも参考にできるようにしていく。

3 全体計画（全5回 本研修3/5）

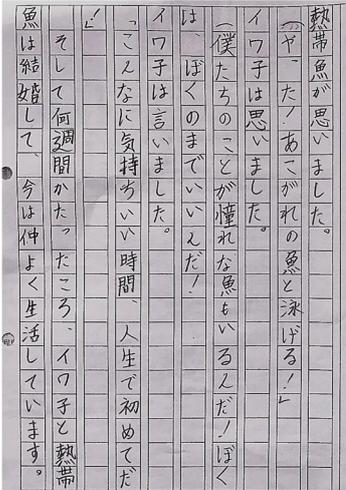
回	月	日	研修内容	発表学年	発表内容・単元名・学習内容
1	7	18	研究主任（4年担任）による実践発表会の説明と実践発表	4年	・『研究授業後の学習と児童の成果物』 国語「山場のある物語を書こう」 →プロット図で書く内容を整理する。
2	9	18	3・5年担任による実践発表	3年	・『シンキングツールの導入』 国語「心が動いたことを詩で表そう」 →イメージマップで考えを引き出す。 理科「こん虫のかんさつ」 →KWL（表に整理して見通す）で整理する。
				5年	・『単元末の書く活動（物語文）』 国語「物語のおもしろさを解説しよう」 →Xチャート（4つの視点で見る）で分類する。
3	11	12	2・3・4年担任による実践発表（授業実践Ⅱ）	2年	・『p4cを取り入れた話合い活動』 学級活動「あなたはどっち？」 道徳科「ながいながいつうがくる」
				3年	・『比較・分類し整理する方法』 国語「分ける」

				→思考ツールと付箋で情報を整理する。
			4年 (特支)	<ul style="list-style-type: none"> 『特別支援学級における指導』 生活単元「物語を作ろう」 →導入の工夫で書く内容の見通しを持つ。 社会「地震からくらしを守る」 →思考ツールの切り替えで考えを整理する。 <p>※児童の実態から、校内研究の手立てを講じた授業を特別支援学級で実践することは難しい。そのため、思いや考えを持たせるために実態に応じた手立てを講じた実践を発表し、特別支援学級における授業づくりの学びの場とする。</p>
4		実践発表	未定	未定
5		実践発表	未定	未定

4 これまでの研修の経過

(1) 第1回実践発表会(7月18日)

① 目的と内容

第1回実践発表会の目的	
<p>実践発表会の内容と発表方法について、本校教員にイメージを持たせる。</p> <p>実践発表会の企画・運営を通して、実践発表会の内容と今後の進め方についての改善点を探る。</p>	
研修内容	
<p>1 実践発表会の概要の確認(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に配付した実践発表会の概要について確認する。 <p>2 実践発表・話し合い(15分)</p> <p>4年生(研究主任)による実践発表『研究授業後の学習と成果物』</p> <p>3 まとめ(3分)</p>	
<p>図1 第1回実践発表会の様子</p>	
発表内容	
<p>○4年生：オンライン学習支援ソフトを電子モニターに映し出して発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元名：国語「山場のある物語を書こう」 手立て：プロット図 目的：物語の山場を捉えさせる。 内容：プロット図で組み立てメモを作成した後の学習活動である、オンライン授業支援ソフト上での作文の下書きと、児童が実際に書いた作文を紹介した。 	
	
<p>図2 児童の作文</p>	
話し合いの内容	
<ul style="list-style-type: none"> 他の先生から見た4年生の書く力の高まりについて 	

- ・初期段階における作文指導の仕方について
- ・作文を用紙に書くかタブレット端末上に打ち込むか。
- ・4年生の実践を他学年でどのように取り入れられるか。発達段階別の手立てを考えた方がよいか。

② 成果と課題

参加者の声(事後アンケートより一部抜粋)	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の後の指導を聞いてみたかったので、それが聞けてよかった。 ・実践発表会を通して先生方から様々な指導を学ぶことができそう。 ・実践発表会の内容は分かった。複数の発表になったとき、会がどう進むかイメージし切れていないので今後に期待したい。 	
成果	課題(・) 今後に向けて(→)
<ul style="list-style-type: none"> ・実践発表会の内容と発表方法について、本校職員にイメージを持たせることができた。 ・授業実践Ⅰ後の指導と児童の様子等について実践発表会を行ったことで、1単位時間では見ることができない児童の変容や成果物について共有することができた。 ・他教員の実践から学ぶことができそうという肯定的な意見が寄せられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践発表会のイメージを持たせるための説明に時間を費やしたため、予定より長い発表となってしまった。 →全担任が実践発表を行うことを考え、実践発表会の時間配分を具体化する必要がある。 ・話し合いには不向きな座席配置であった。 ・発表人数が複数になった場合の実践発表会のイメージがしきれていない。

③ 今後の展開

今回は、発表人数が複数になった場合の実践発表会のイメージを持たせることを目的として企画・運営を行う。

(2) 第2回実践発表会(9月18日)

① 目的と内容

第2回実践発表会の目的	
発表人数が複数になった場合の実践発表会の進め方について、本校教員にイメージを持たせる。実践発表会の企画・運営を通して、実践発表会の内容と今後の進め方についての改善点を探る。	
研修内容	
<p>1 進め方の確認(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容、発表方法、発表時間、留意点等について確認する。 <p>2 実践発表・話し合い(20分)</p> <p>① 3年生による実践発表『シンキングツールの導入』</p> <p>② 5年生による実践発表『単元末の書く活動(物語文)』</p> <p>3 まとめ(3分)</p>	
<p>図3 第2回実践発表会の様子</p>	
発表内容	
<p>○3年生：オンライン学習支援ソフトを電子モニターに映し出して発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元名：国語「心が動いたことを詩で表そう」 ・手立て：イメージマップ ・目的：詩で表現したい言葉を多く書き出させる。 ・内容：テーマから連想できるものをイメージマップに書き出し、詩で表現したい言葉を選んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・単元名：国語「漢字の部首」 ・手立て：Yチャート ・目的：部首から漢字の持つ意味を推測できることに気付かせる。 ・内容：Yチャート上で、漢字を部首ごとに分類した。 	

- ・単元名：理科「こん虫のかんさつ」
 - ・手立て：KWL
 - ・目的：昆虫によって成長の順序に違いがあることに気付かせる。
 - ・内容：KWLを使用し、昆虫の成長の仕方を整理した。
- 5年生：オンライン学習支援ソフトを電子モニターに映し出して発表
- ・単元名：国語「物語のおもしろさを解説しよう」
 - ・手立て：キャンディーチャート、Xチャート
 - ・目的：注文の多い料理店の登場人物の本音と建て前に気付かせる。
 - ・内容：キャンディーチャートを使用し、登場人物の会話文を整理させた。その後、Xチャートを使用し、グループごとに物語を面白くしている表現を出して話し合った。

話合いの内容

- 3年生
- ・使用したシンキングツールの活用場面について
 - ・シンキングツールを使いこなすための練習をどの時間で確保していくか。
 - ・本校でシンキングツールを活用するねらいの再確認
- 5年生
- ・使用したシンキングツールの良さについて(考えの共有の幅が広がる)
 - ・自分が使いやすいようにシンキングツールを改良した例とやり方

② 成果と課題

参加者の声(事後アンケートより一部抜粋)

- ・他教科でも実践できそうだと感じた。
- ・「こんなツールの使い方があるのか」ということに気付くことができた。教員がICT機器の操作に慣れることが大切だと感じた。
- ・どんな目的でツールを使うかを見極めた上で今後の授業実践をしたい。
- ・自分の実践を説明することで、ねらいや成果、課題がより明確になった。
- ・5年生の発表から、授業のゴールやシンキングツールの活用のねらいを明確にすることで、児童自身で使いやすいようにシンキングツールを改良しながら活用できると感じた。
- ・他の先生方の実践も聞いて勉強したい。

成果

課題(・) 今後に向けて(→)

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・発表人数が複数になった場合の実践発表会のイメージを持たせることができた。 ・他学年が実践した授業の有効性や課題を話し合う場にすることができた。 ・発表会を通して自分の授業づくりに生かそうという意識が高まった。 ・ツールに不慣れな教員にとっても実践の具体を知る機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの始めに、何を話せばよいか分からず沈黙する時間があった。 →大まかな発表内容を紙面にまとめて配布する、話合いの視点を明確にするなどして、話し合わせる必要がある。 ・教員によって発言時間に大きな差があった。 →教員の実態を考慮した座席を工夫する、隣同士で話し合わせてから全体の話合いに進むなどして、発言しやすい場を整える必要がある。 |
|--|--|

③ 今後の展開

- ・次回は、発表人数が3名(特支学級含む)での企画・運営を行う。
- ・研修の流れと話合いの視点を1枚にまとめて配布し、見通しを持って参加できるようにする。
- ・教員の実態を考慮した座席配置と話合いの形態を考えていく。

5 第3回実践発表会の概要

(1) 第3回実践発表会の目的

各学年の発表から校内研究を意識した授業づくりの手掛かりを見付け、本校教員の学習指導に生かそうとする意欲を高める。

実践発表会の企画・運営を通して、実践発表会の内容と今後の進め方の改善点を探る。

(2) 研修会の流れ

時間	内容	◎運営上の留意点
15:00	<p>1 進め方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修の目的、必ず発表する項目、話合いの視点を確認する。 <p>2 実践発表 一人10分(発表1～3分+話合い)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○発表と話合いの流れ <ul style="list-style-type: none"> ①発表 ②話合い <ul style="list-style-type: none"> ・隣の先生と意見交換 ・全体共有 ・共有した内容についてよりよい手立てを検討 ○話合いの視点 <ul style="list-style-type: none"> ・手立ての有効性 ・自分だったら授業をどう展開するか(改善点) </div>	◎研修始めに「必ず発表する項目」と「話合いの視点」を確認し、明確にしておく。
15:02	(1) 3年生での実践 「比較・分類し整理する方法」	◎発表するべき項目が抜けていた際は、研究主任が発表者に質疑を行い、話合いに移る。
15:12	(2) 2年生での実践 「p4cを取り入れた話合い活動」	◎全体での話合いの前に、隣同士で話し合う時間を設けることで、全員が話合いに参加できる機会と発言しやすい雰囲気をつくる。
15:22	(3) 4年生(特別支援学級)での実践 「特別支援学級における指導」 ※児童の実態から、校内研究の手立てを講じた授業を特別支援学級で実践することは難しい。そのため、思いや考えを持たせるために実態に応じた手立てを講じた実践を発表し、特別支援学級における授業づくりの学びの場とする。	◎教員の実態を考慮した座席配置にする。
15:32	3 まとめ ・参加者から ・発表者から	◎今回の学びと今後の授業に生かせる内容を研修シートに記入してもらおう。時間に余裕があれば発表して共有する。 ◎発表者から感想をもらおう、発表者を労う等して終わるようにする。

(3) 準備物

企画者：校内研修シート、タブレット端末、電子モニター

参加者：校内研修シート、タブレット端末、発表に必要なもの(発表者)

(4) 評価

評価の内容	評価方法
各学年の発表から校内研究を意識した授業づくりの手掛かりを見付け、自身の学習指導に生かそうとする意欲を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修時の参加者の様子 ・事後アンケート

令和7年度 校内研究 校内研修シート

第3回実践発表会

期日：令和7年11月12日（水）

時間：15:00～15:35

場所：4年1組教室

進行：研究主任

1 実践発表会の流れの確認

①発表

②話合い

- ・隣の先生と意見交換
- ・全体共有
- ・共有した内容についてよりよい手立てを検討

※①②を繰り返す

○必ず発表する項目

- ・講じた手立てとその目的
- ・結果（成果や課題）
- ・児童の様子

○話合いの視点

- ・手立ての有効性
- ・自分だったら授業をどう展開するか(改善点) など

2 実践発表 一人10分(発表1～3分+話合い)

(1) 3年生での実践『比較・分類し整理する方法』

国語「分ける」

→シンキングツールと付箋で情報を整理する。

(2) 2年生での実践『p4cを取り入れた話合い活動』

学級活動「あなたはどっち?」、道徳「ながいながいつうがくろ」

→p4cを学活や道徳で取り入れ、話題に対する自分の思いや考えを持たせる。

(3) 4年かもめ学級での実践『特別支援学級における指導』

①生活単元「物語を作ろう」

→導入を工夫して、山場のある物語文のイメージを持たせる。

②社会「地しんからくらしを守る」

→シンキングツールを切り替えながら、自分が必要だと思う防災グッズを見出せるようにする。

3 まとめ

☆実践発表と話し合いからどんな学びが得られましたか。また、どのように生かしていきたいですか。

・発表者から

後日、実践発表や発表会全体についてのアンケートへの回答に御協力ください。
よろしくお願いいたします。